

3. 桑折町の将来像（グランドデザイン）

3. 桑折町の将来像(ランドデザイン)

(1) まちづくりの基本理念

桑折町は、東日本大震災により、数多くの建物の損壊や道路や下水道などの公共施設の損壊など、未曾有の災害に見舞われました。また、歴史ある街並み景観が一瞬で失われたことや、原発事故による風評被害など、町民の方々に対し、すぐに癒えることのない悲しみを残しています。

都市計画マスタープランは、「復興こおり創造プラン」のもと、真の復興を成し遂げ、桑折町に暮らしているみなさんが豊かに楽しくそして快適に生活し、更に来訪者をもてなすことで、「こんなまちに住んでみたいな!」と思えるまちづくりを実現するための「都市計画の基本方針」として位置づけられるものです。

【基本理念・キャッチフレーズ】

未曾有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた 「こおり 新時代」をめざして

災害に強い強靱なまちを目指します

甚大な被害を受けた東日本大震災の教訓を十分に生かした防災体制に併せ、避難地や避難路の機能強化・充実を図るための市街地整備や道路整備を進めます。

また、被害を可能な限り小さくできる街並みを創出するため、建築物の耐震化を促進します。

安心して長く住み続けられるまちを目指します

充実した医療・福祉により、高齢者も安心して生き甲斐をもって暮らすことができ、子どもを産み、育てやすい環境づくりを目指していきます。

また、市街地周辺の田園・果樹園や半田山をはじめとした森林、川辺は、広域観光レクリエーションの場として地域間交流を促進し、農林業の活性化にも繋げていきます。

周辺地域との広域連携による持続可能なまちを目指します

買い回り品などの大きな買い物や高等教育などは、福島市、仙台市などに出かけ、普段使う最寄り品の買い物や日常的なレクリエーションは身近な場所で満たせるなど、周辺市町村との効率的かつ効果的な広域連携を図ることで、快適な日常生活を送れるまちづくりを目指します。

また、高速交通体系の充実に併せ、相馬市などの相双地方の都市群も視野に入れた新たな従業地を創出するためのまちづくりを進めます。

歴史・風土を活かした個性あるまちを目指します

自然と歴史・文化に恵まれた風土を活かして、穏やかで豊かに暮らせるような生活環境を創出する田園都市を目指します。また、地形風土に馴染む都市構造とすることで、防災、環境負荷低減にも努めていきます。

被災しながらも残存した旧伊達郡役所などの歴史的建造物や旧街道を大切にする気風を維持するとともに、穏やかな農村集落では、住農混在の暮らしやすい住環境を形成していきます。

町民のみなさんがまちづくりに主体的に参加できることを目指します

桑折らしさを町民みなさんで発掘し、守り育てていくことで、住んでいる人々が「住んでよかった。これからも住み続けたい。」という郷土への誇りと愛着を感じられるまちづくりを目指していきます。誇りを持って暮らしている人々の姿は、来訪者からみても魅力的なまちに映り、「きれいな街並みや農地がある魅力的な町だなあ。子ども達からお年寄りまで、みんな元気で楽しそうだ。こんな町で暮らしてみたいなあ。」と感じて頂けるまちづくりを目指していきます。

(2) まちづくりの基本目標(5つのテーマ)

「まちづくりの基本理念」を実現するため、次のような5つのテーマを設定します。

桑折町の姿

1. 桑折町を取り巻く社会経済情勢

- ・東日本大震災による中心市街地等における大きな被災
- ・人口の減少、少子高齢化の進展
- ・低迷する経済、地方分権の推進
- ・自然環境や歴史・文化、防災・防犯への関心の高まり
- ・価値観やライフスタイルの多様化
- ・協働によるまちづくりの展開
- ・まちづくりに関する制度の変革

2. 桑折町の歩む方向

- ・復興・防災の推進と、住みやすいまちづくりをめざす
- 【復興こおり創造プラン】
「未曾有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた『こおり 新時代』をめざして」
- ・災害に強い 安全で安心な町
 - ・みんなで支える 健康で人に優しい町
 - ・自然豊かで住みやすい 美しい町
 - ・復旧と復興 快適に生活できる町
 - ・未来を拓く 子育て支援と学びの町
 - ・大災害に負けない 活力ある町
 - ・絆を支える 住民が主役の町

3. 桑折町の地勢と気候

- ・地形の変化に富んだまち
- ・穏やかな田園風景
- ・ランドマーク半田山
- ・水の豊かなまち
- ・果樹栽培に向く内陸気候

4. 桑折町の生い立ち

- ・仙台藩伊達氏発祥の地
- ・古くからの交通の要衝
- ・日本三大鉱山といわれた幕府直営の半田銀山
- ・伊達の政治・経済の中心
- ・養蚕業で発展したまち

5. 桑折町の暮らし

- ・進む少子高齢化
- ・福島市や伊達市への依存度が高い
- ・広域交通の利便性に恵まれたまち
- ・都市型産業構造への移行
- ・自然的土地利用の多いまち
- ・駅周辺や道路沿道に開発傾向
- ・福祉・コミュニティ施設
- ・洪水や土砂災害の危険
- ・様々な桑折自慢(地域の資源・環境や果物、お祭り等)

6. 町民の声

- ・郷土の宝・誇りは「豊かな自然」「農作物」「歴史遺産」
- ・約7割が住み続けたい意向(中学生は町外定住志向も)
- ・雇用機会、買い物利便性、生活道路環境、公園緑地に不満
- ・将来像は「福祉の充実」「快適・便利」「安全・安心」
- ・必要な施設は「商業施設」

桑折町の魅力と問題点

■次世代に継承すべき「町の魅力」

- ・半田山周辺の豊かな自然環境や自然公園
- ・市街地を包み込む果樹園や田園の穏やかな風景
- ・阿武隈川や産ケ沢川などの水辺空間
- ・奥州・羽州街道の分岐点にあたる宿場町としての面影
- ・旧伊達郡役所などの歴史的建造物や旧街道
- ・伊達氏の居城(桑折西山城)、荘厳な神社仏閣の風景
- ・先人・先輩の開拓者精神を次世代に継承
- ・住民主体のまちづくり活動の展開

■改善したい「町の問題点」

- ・人口減少と地域経済・地場産業の低迷
- ・中心市街地(商業地)の魅力、活力の低迷
- ・中心市街地や工業団地の散在する未利用地
- ・市街地、集落における生活基盤の未整備
- ・市街地周辺部に集積する公共施設
- ・資源が有効に活かされていない街並み景観
- ・産業構造の変化に伴う遊休農地や森林荒廃
- ・利便性の低い公共交通(バス網など)
- ・安全性に問題のある市街地の道路(狹隘・歩道未整備)
- ・都市災害に脆弱な建築物群
- ・洪水、土砂災害などの危険
- ・市街地や集落の細街路など都市防災・交通安全問題

■創出すべき「町に不足していること」

- ・中心市街地の拠点性を高める場がない
- ・町内で「働く場」がない
- ・子どもたちが安心して遊べる公園緑地が少ない
- ・貴重な資源が埋もれ、有効に活用・PRされていない
- ・まちづくりに関する合意形成の仕組みがない

桑折町の課題

復興・防災・減災

- 災害による被害を最小化するための住宅・社会資本整備が必要
- 発災時における周辺市町との円滑な物資輸送の円滑化が必要
- 発災時における情報伝達の円滑化や支援物資の集配等に対応できる場所の確保が必要
- 発災時における避難地までの円滑な誘導が必要
- 洪水・内水・土砂災害への対策が必要

災害に強いまちづくり

持続

- まちの規模や財政に適した持続可能なまちづくりが必要
- 福島市及び周辺都市、太平洋沿岸等の都市群との機能分担、連携強化が必要
- 市街地と農村集落との共生のため連携の強化が必要
- 社会資本ストックや遊休農地等の有効活用が必要
- 無秩序な市街地の拡大やスプロールの抑制が必要
- 自然環境との共生、環境負荷の低減が必要

持続していくまちづくり

定住

- 住民が誇りと愛着をもち、楽しく暮らせるまちづくりが必要
- 中心市街地の再生による活力・魅力の向上が必要
- 生活環境の快適性向上の確保が必要
- 高齢者が快適で生き甲斐をもち暮らせる環境の創出が必要
- 子を産み、育てやすい環境の創出が必要

住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり

個性

- 歴史的建造物や旧街道を大切にする気風の維持が必要
- 地形や気候に合った都市構造の構築が必要
- シンボルや埋もれた資源を活かしたまちづくりが必要
- 豊かな自然環境を守り育て、活用していくことが必要
- 様々な地域資源の有機的な連携が必要

歴史・風土などの個性を活かしたまちづくり

参加

- 町民に対する情報提供・意見交換機会の創出が必要
- 住民自らが主役となって協働のためのコミュニティ形成が必要
- 楽しみながら実践していけるような仕組みづくりが必要
- 地域コミュニティの形成、強化が必要

住民自らが参加し、楽しみ・もてなすまちづくり

【まちづくりの基本目標（テーマ）】

1. 災害に強いまちづくり
2. 持続していくまちづくり
3. 住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり
4. 歴史・風土などの個性を活かしたまちづくり
5. 町民自らが参加し、楽しみ・もてなすまちづくり

① 災害に強いまちづくり

当面の除染事業や長期にわたる町民の健康検査と並行し、被災した公共施設や道路などの復旧作業を推進するとともに、再度の発災に備えた中心市街地や集落の防災・減災対策、洪水・土砂災害対策等を進めることで、災害に強いまちづくりを展開します。

【施策の方向性】

- 広域輸送路等の整備
- 中心市街地、集落における狭隘な道路の整備・改善
- 避難地（オープンスペース、防災公園等）の適正配置・整備
- 避難地と一体で機能する避難路ネットワークの構築
- 建築物の耐震化の促進
- 河川・下水道の整備

【町民の主な取り組み（例）】

- 建築物の建て替えに併せた公共空間の提供
- 建築物の耐震化
- 近隣とのコミュニティ形成による防災意識の向上

② 持続していくまちづくり

無秩序な市街地の拡大を抑制したり、既存の社会資本ストックを有効に活用したりすることで、まちの規模や財政状況に見合った効果的なまちづくりを展開します。

また、（仮称）国道4号IC周辺にあっては、相馬福島道路（霊山～福島）や一般国道4号等を活用し、福島市及び周辺都市、相馬市などの相双地方の都市群を含めた広域連携を図るための新たな広域拠点の形成を図ります。また、効果的かつ効率的なまちづくりを推進し、自然環境との共生によって環境負荷の少ないまちを創出していきます。

【施策の方向性】

- 無秩序な市街地拡大の抑制とコンパクトな市街地の形成
- 相馬福島道路（霊山～福島）及び（仮称）国道4号IC、一般国道4号を活用した福島市及び周辺都市、相馬市などの相双地方の都市群との広域連携機能の強化
- 学校や公民館などの公共施設ストックの積極的な有効活用（多目的利用）
- 森林や農地の開発に対する適正な規制誘導
- 水質浄化や省エネルギー対策による環境負荷の低減

【町民の主な取り組み（例）】

- 効率的なまちづくりに対する参画、意識の向上
- ごみ減量化や省エネに関する取り組み
- 合併浄化槽の設置等による水質改善

【広域連携のあり方】

広域連携を図るべき取り組み	町単独で進める取り組み
【考え方】 ●福島市及び周辺都市や相馬市などの相双地方の都市群と連携することが効果的な取り組み ●連携を図ることで、効率的な投資が可能となる取り組み ●既に広域連携を図っている施設や行政事務	【考え方】 ●町民の生活と密接に関係し、きめ細かな住民サービスが求められる取り組み（日常的な事項） ●町内で完結できる取り組み ●法制度上、1自治体として対応すべき取り組み
【具体例】 ・既に広域的な設置・運営がなされている公立藤田総合病院、伊達地方衛生処理組合、伊達地方消防組合、伊達市 桑折町 国見町火葬場協議会、福島地方広域行政事務組合など ・高等教育（高校、大学） ・買い回り品などの大きな買い物、広域商圈を有する大型ショッピングセンター ・図書館や文化センター、大規模公園や運動場等の施設 ・広域交通や公共交通に関する事項（バス網、デマンド型乗合タクシー等） ・観光、特産品開発やPR ・自然環境の保全に関する取り組み など	【具体例】 ・町民に対する基本的なサービスや町民のコミュニティ形成に関する支援 ・小中学校の設置及び運営、子育て支援に関する取り組み ・生活に身近な住宅、道路、公園などの社会資本の整備・管理 ・日用品などの身近な買い物のできる商業 ・歴史風土の修復・保存や、身近な景観、小さな資源の発掘、保全、活用 ・自然災害等に対する身近な防災
【課題】 ・広域的なビジョンの策定（生活圏レベルの広域計画、区域マスタープランなど） ・広域的な対話機会の創出	【課題】 ・都市計画マスタープランの推進及び個別計画等の立案 ・マスタープランに基づく事業展開・実践

③ 住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり

安心して快適に暮らすことのできるまちが望まれています。医療・福祉や子育て環境の充実を図り、子どもたちからお年寄りまで安心して暮らせるようなまちづくりを展開します。また、市街地周辺の農村集落では、環境や景観を重視した田園都市を形成し、良好な住環境を提供していきます。

【施策の方向性】

- 中心市街地の住宅や田園居住など、様々なニーズに対応する住環境の提供
- 安心して歩ける歩道や駅舎、公共施設等のユニバーサルデザイン※化
- 充実した医療・福祉施設の維持
- 高齢者が生き甲斐を感じられるような交流の場や社会参加機会の創出
- 子育て支援の充実や気軽に行ける公園の整備
- 情報化社会に対応した社会基盤の整備
- 市街地と農村集落との連携強化による農村集落の利便性向上
- 農村集落などの農業振興地域の農用地区域以外の区域の適正な土地利用
- （仮称）国道4号IC周辺の農業振興地域（農用地区域）における適正な開発

【町民の主な取り組み（例）】

- 気軽に挨拶し合えるような社会づくり
- 社会参加による自らの生き甲斐づくり
- 災害に対する心構えと準備を整えるなどの防災意識づくり
- 防犯・交通安全に対する地域の意識づくり

※ ユニバーサルデザイン：年齢や性別、身体的能力などの違いにかかわらず、初めからすべての人が使いやすいように、製品や建物、空間をデザインしようとする考え方。

④ 歴史・風土などの個性を活かしたまちづくり

旧伊達郡役所、桃の花の咲き誇るこおり桃源郷、半田山などは桑折町を代表する魅力的な資源です。これらの資源を観光・景観資源として活用することで、来訪者（観光客）を引きつけられるような地域・観光振興を展開していきます。
また、農林業などの地場産業の振興にもつながるようにしていきます。

【施策の方向性】

- 旧伊達郡役所を中心とする観光拠点の形成
- 駅前公有地及び旧街道沿道を中心とする生活拠点の形成
- こおり桃源郷や半田山などの地域資源のネットワーク強化
- 観光と農林業の相乗効果を発揮するグリーンツーリズム※1の展開
- 飯坂温泉や花見山などの近隣市町村との広域観光ネットワーク強化

【町民の主な取り組み（例）】

- 歴史・風土に馴染む建造物の保全や修復への協力
- 昔から伝わる住まいづくりや風物詩などの“知恵と文化の伝承”
- 埋もれている“桑折の宝”を発掘、再生する取り組みへの参加

⑤ 住民自らが参加し、楽しみ・もてなすまちづくり

まちづくりの主役は、町民のみなさんや働くみなさんです。みなさんが主体的にまちづくりに参加し、来訪者をもてなす仕組みをつくっていくことが望ましいと考えています。みなさんが楽しんで生活してこそ、来訪者の方々が、そこに住んでみたいと考えるようになります。

【施策の方向性】

- 中心市街地の空き店舗等を活用した集会場やチャレンジショップ※2等の設置
- まちづくりに関する組織の設立や活動支援
- まちづくりや都市計画に関する町民の意識啓発

【町民の主な取り組み（例）】

- まちづくりや社会活動に対する積極的な参加
- 楽しみながら簡単にできることからコツコツと（道の掃除や花いっぱい運動、まちづくり勉強会への参加、まちづくりに関する意見の発信、など）



奥州羽州街道桑折茶屋社会実験

※ 自ら参加し楽しもうとすることが、まちづくりの第一歩です

【協働のまちづくりのために期待される役割】

行政	町民や地域、自治会等	企業・事業者等
●一層の情報公開と行財政改革の推進 ●マスタープランや指針（ガイドライン）などの策定 ●個人や団体、事業者への支援 ●住民主導型まちづくりへの先導役、中間支援組織や人材の育成、情報提供 ●国や福島県・近隣市町との交渉・調整	●まちづくりの主役としての意識向上（興味をもつ） ●簡単にできることから参加を始める（家の前の道掃除や花いっぱい運動など） ●個人の趣味や特技、職業技能を活かした社会活動への参画	●地域の一員としての社会貢献活動やまちづくりへの積極的な参画 ●企業のノウハウや人材、情報の提供 ●企業の事業分野・得意分野を活かしたまちづくり活動への協力

※1 グリーンツーリズム：緑豊かな農山漁村地域において、その自然や人との交流、農業体験などを楽しむ滞在型の余暇活動。

※2 チャレンジショップ：新たに商売を始めようとする人が、本格開業の前に店舗経営のノウハウを学び、自信と経験を積むための仮店舗。

(3) 将来フレーム

現行の都市計画マスタープランの基準年である平成 17 年を平成 22 年に時点修正し、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（コーホート要因法）を用い、概ね 20 年後における将来人口を設定しました。

その結果、現行の都市計画マスタープランで予測されていた人口より、減少傾向が進行していることが明らかになりました。

しかし、本町では、「復興こおり創造プラン」で掲げられた「総人口 13,000 人の目標達成」に向け、以下に示す事業や施策を実施していくことにします。

- ◆ 駅前公有地を対象とする「復興公営住宅」「宅地分譲」に加え、「公園」「交流施設」などの事業の推進による交流拠点機能の強化
- ◆ まちなかに生じている空地を活用した民間住宅の整備
- ◆ 集落部における生活利便性の確保及び生活水準の維持
- ◆ （仮称）国道 4 号 I C 周辺における新たな業務地の開発及び既成市街地との一体化、まちなかの魅力との一体化

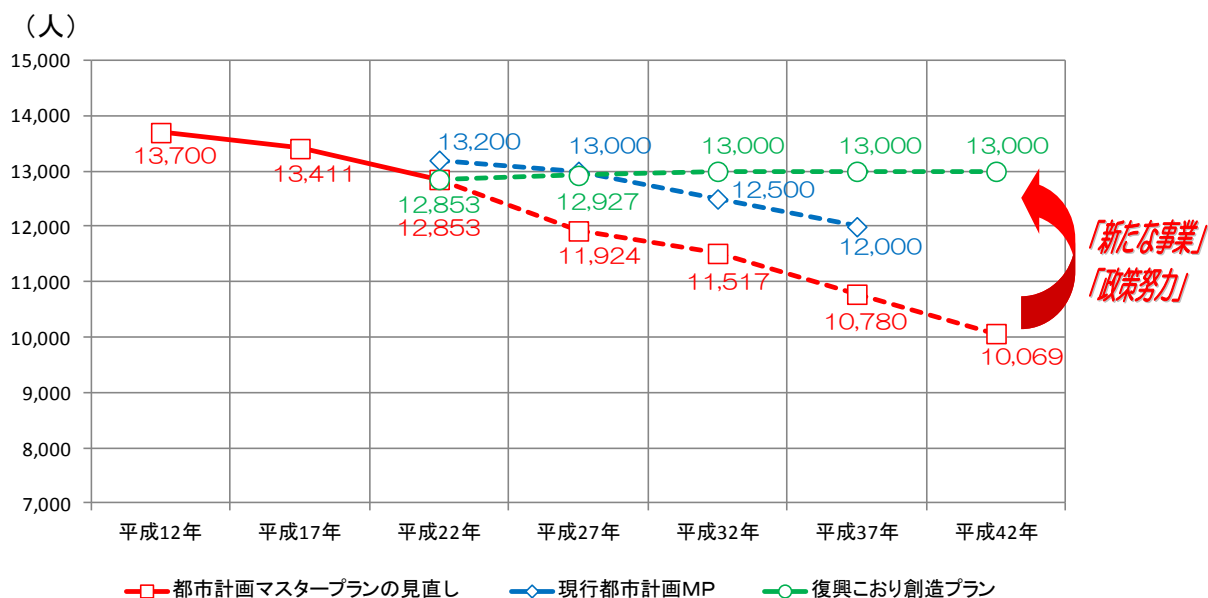
また、本格的な少子高齢・人口減少社会の進行により、概ね 20 年後にあつては、高齢化率が約 40%に達し、5 人に 2 人が高齢者になることが想定されますが、本町では「高齢者が安心して生き甲斐を持って暮らし、子どもを産み、育てやすい環境づくり」をめざし、医療・福祉や子育て環境の充実、環境や景観を重視した田園都市の形成を図ることにします。

【総人口の推移と予測】

項 目	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年
都市計画マスタープランの見直し（平成 22 年を基準値）	13,411	12,853	11,924	11,517	10,780	10,069
現行の都市計画マスタープラン（平成 17 年を基準値）	13,411	13,200	13,000	12,500	12,000	—
復興こおり創造プラン	13,411	12,853	12,927	13,000	13,000	⇒

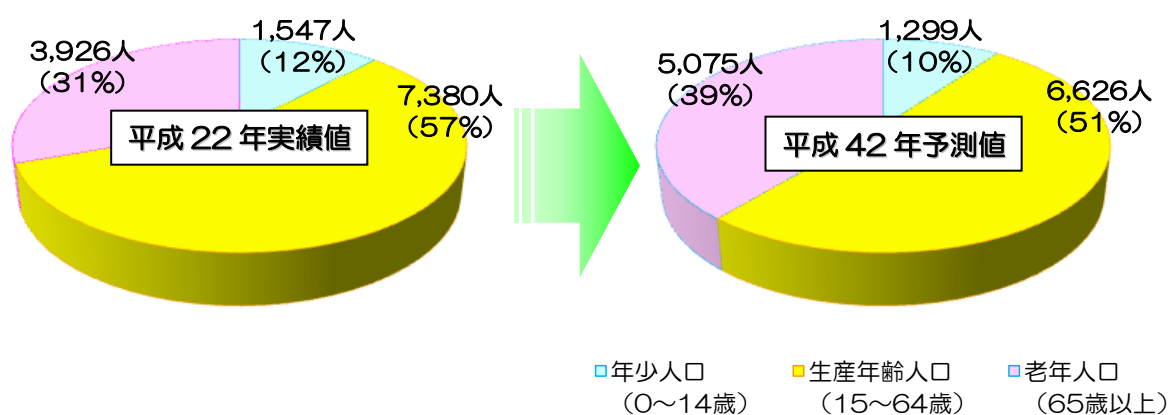
※1 現行の都市計画マスタープランにおける平成 22 年については予測値

※2 平成 27 年以降は、いずれも予測値であるが、「都市計画マスタープランの見直し（平成 22 年基準値）」で用いた「出生率」「生存率」「移動率」は、いずれも福島県値を適用



【年齢階層別人口の推移と予測（人）】

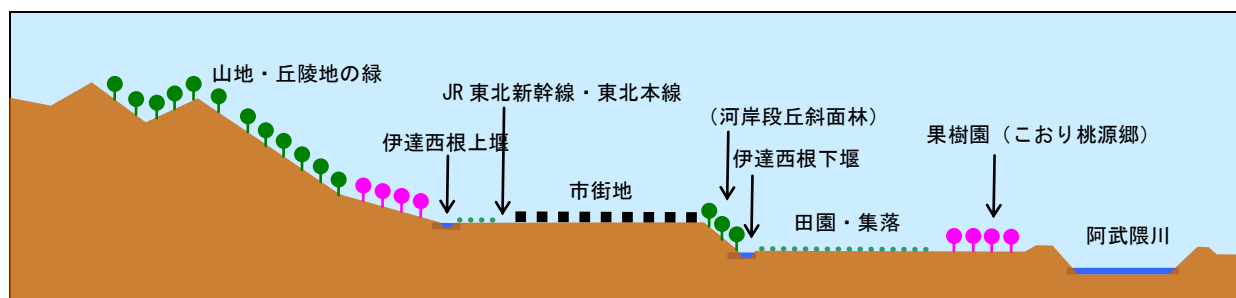
階層	実績値	予測値			
	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年
年少人口（0～14 歳）	1,547	1,466	1,412	1,468	1,299
構成比	12.0%	11.3%	10.9%	11.3%	10.0%
生産年齢人口（15～64 歳）	7,380	7,060	6,874	6,590	6,626
構成比	57.4%	54.3%	52.9%	50.7%	51.0%
老年人口（65 歳以上）	3,926	4,473	4,714	4,942	5,075
構成比	30.5%	34.4%	36.3%	38.0%	39.0%
合計	12,853	13,000	13,000	13,000	13,000
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



【年齢階層別人口】

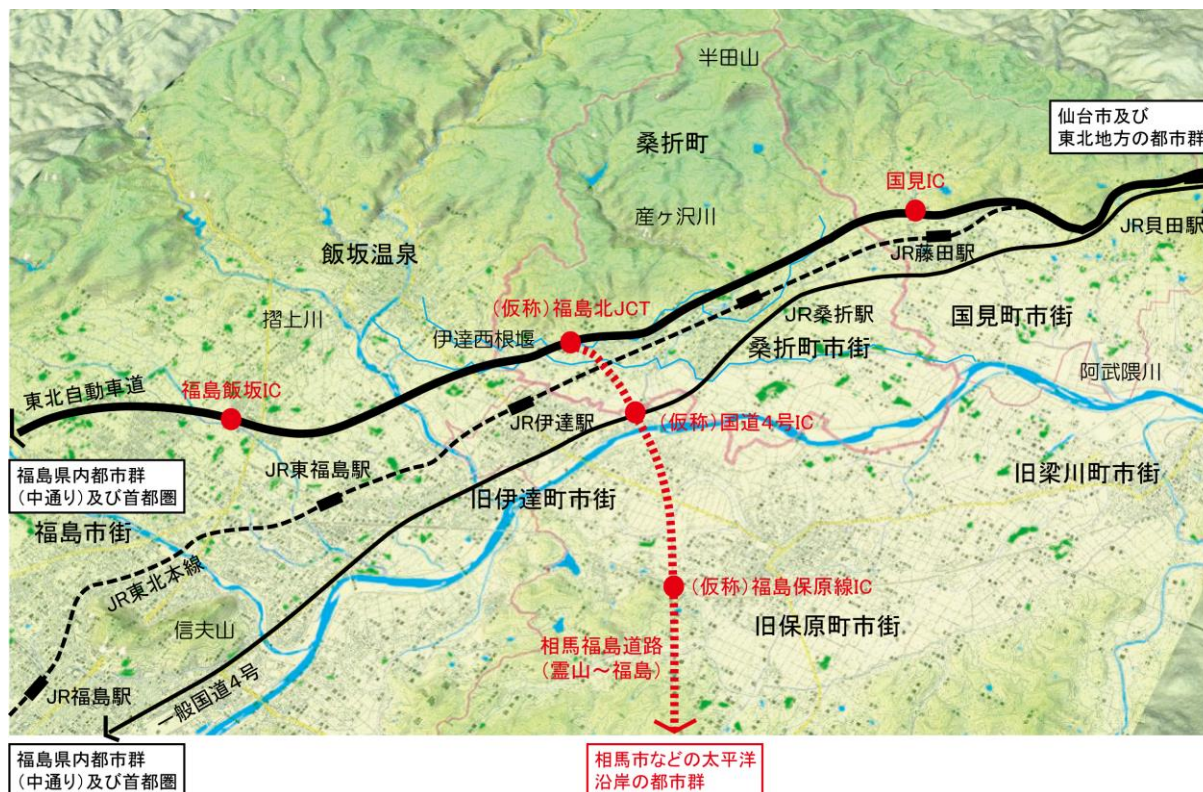
(4) 桑折町の地形特性からみた構造

- 福島盆地の北端に位置する平坦地
 - 阿武隈川の浸水想定区域は、市街化や開発を抑制
 - 「半田おろし」など風が強く吹く市街地北部は、市街化を抑制
- 東側は阿武隈川の氾濫原と低位段丘
 - 水害等のおそれがあるため農地を保全し、宅地化を抑制
- 新幹線西側は半田山を含む山地、丘陵地
 - 地形が急峻であり、インフラ整備も進んでいないことから市街化を抑制
 - 土砂災害危険区域などは、市街化や開発を抑制



【都市構造断面図】

- 福島市や伊達市、国見町と市街地が南北方向に連担
 - 福島盆地（旧伊達郡）が一体となった機能分担と連携



【広域的な都市構造図】

(日本地図センター発行の彩色地形図を加工して作成)

(5) 桑折町の将来像（グランドデザイン）

① 桑折町の骨格を形成する軸

- 自然環境の骨格軸となる半田山周辺と低地に広がる農地、山地～丘陵地
- 国土軸としての東北自動車道、相馬福島道路（霊山～福島）
- 国土軸（鉄道）としての JR 東北新幹線・東北本線
- 広域幹線軸としての一般国道4号
- 都市内幹線軸としての主要地方道浪江・国見線、一般県道保原・伊達崎・桑折線、一般県道飯坂・桑折線、一般県道国見・福島線、その他幹線的機能を有する町道

② まちづくりの拠点

- JR 桑折駅周辺の旧奥州街道筋に伸びる中心商店街のにぎわいの創出
- 駅前公有地などを活用した求心性のある町の中心核・交流拠点の形成
- 南部の工業団地の活性化を図るための産業拠点
- （仮称）国道4号IC周辺にあって、福島市及び周辺都市、相馬市などの相双地方の都市群との連携を見込んだ新たな流通・業務拠点
- 睦合地域、伊達崎地域、半田地域の集落の生活・防災拠点

③ 水と緑の拠点

- 半田山自然公園や桜の見本園を含めた総合的な緑の拠点（癒しの場としての森林療法（フォレスト・セラピー※1）の活用など、自然体感型の観光レクリエーション拠点）
- こおり桃源郷を中心とした阿武隈川親水レクリエーション拠点
- うぶかの郷や親水公園、桑折西山城跡周辺の歴史文化観光拠点
- 町の顔ともなり、また、子どもたちが自由な遊びを実現できるような「プレイパーク※2」の要素などを盛り込んだ中心市街地の緑の拠点（都市公園）
- ふれあい公園などの公共施設を有効活用したスポーツレクリエーション拠点

④ 水と緑の軸

- 阿武隈川などの河川と周辺を含めた水辺空間軸
- 地形の区切りともなっている段丘縁辺の緑や伊達西根堰下堰の水系軸
- 市街地を流れる伊達西根上堰や水路の水系軸（中心市街地の水路再生など）
- 半田おろしなど風の通り道となる軸
- 「こおりの小径」など、観光資源や公園緑地を結ぶネットワーク

⑤ 市街地や集落の基本単位（まとまり）

- 緑で分節された市街地・集落単位
（農地や樹林地によって分節された市街地・集落は、生活空間としても景観的にも一定のまとまりを有する。この単位を基本として、基盤整備や景観形成を考える。）
（桃の花が咲くような小さな集落の集合体。一つ一つはコンパクトに。無秩序な拡大を抑制し、周辺環境と調和するコンパクトな市街地・集落を形成。（各地区相互の連携））

※1 フォレスト・セラピー：医療福祉分野において森林空間を利用した健康の維持・管理等を行う活動のこと。

※2 プレイパーク：住民が主体となり、自己責任による「自由な遊び」を実現する、公園活動（冒険遊び場）。



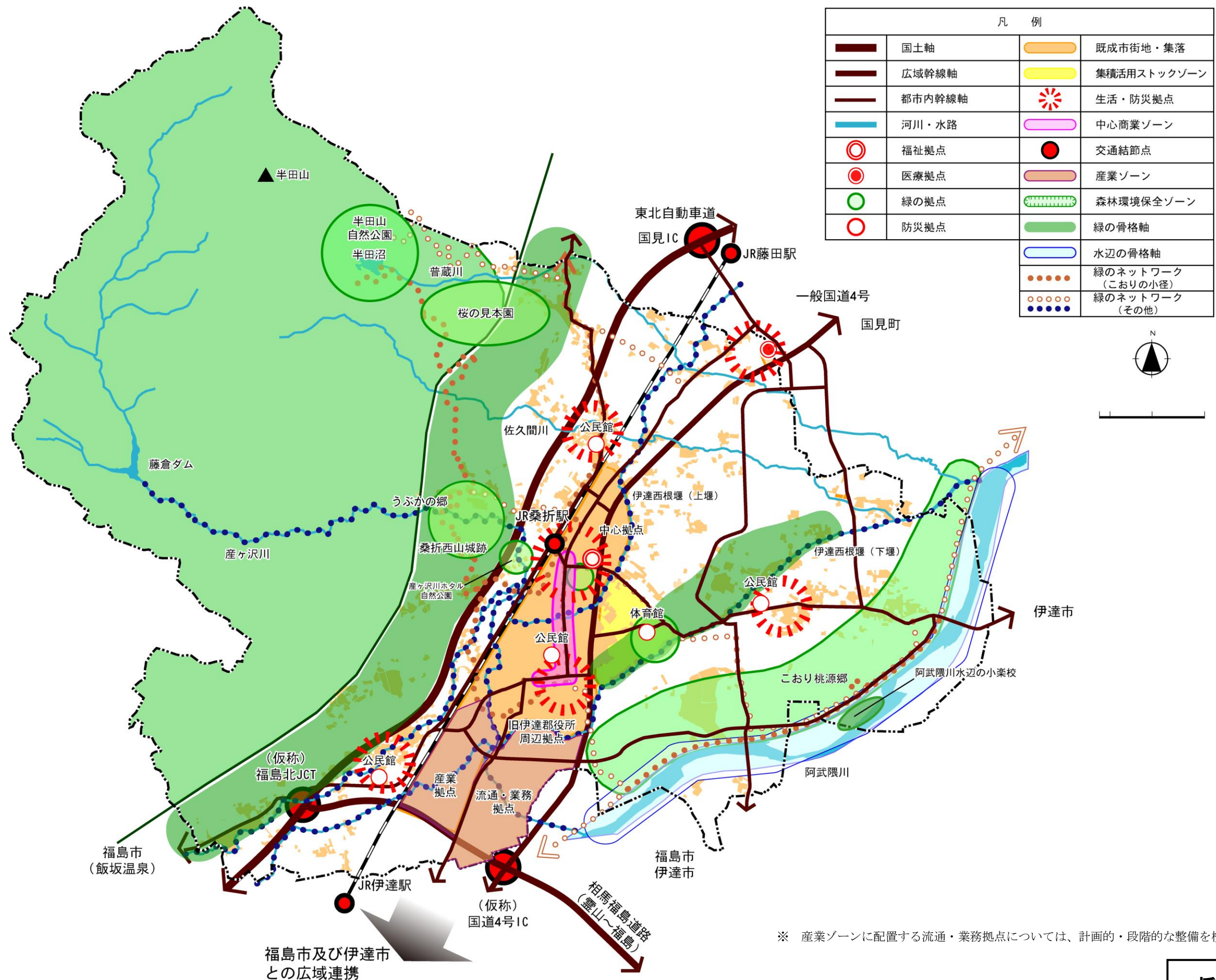
【将来像図】



- まちの中心に町民が集まる拠点「まちの顔」の整備
- 定住人口を増やすまちなか居住や良好な住環境整備
- 4つの地域の交流促進のための道路整備とソフト展開
- 地域連携のための交通ネットワーク（広域連携による公共交通マネジメント）
- 広域交通網の充実と産業拠点（工業団地）の機能強化及び新たな流通・業務拠点の形成
- 国見町との調整による北部市街地の整備
- 緑の骨格・水を活かしたまちづくり（保全と創造）
- 農業や環境を活かした観光体験（グリーンツーリズム）

■将来像 概念図





将来像図

（６）立地条件別の将来像イメージ

まちの表情やまちづくりの方向は、立地条件によっても異なります。

ここでは、中心市街地や一般国道４号沿い、農村集落、田園・果樹園、水辺空間、森林空間に区分した将来像のイメージを設定します。

● 中心市街地

- 駅前公有地を中心とする桑折地区の市街地は、求心性をもち町民が集えるような場所とします。
- 一般県道国見・福島線に結節する狭隘な生活道路を整備・改善し、発災時の避難・誘導に資する避難路ネットワークの形成を図ります。
- まちかどに小公園などを整備し、町民の憩いの場を創出します。
- 旧伊達郡役所などの主要な歴史的建造物の保全・利活用、水路の再生、案内サインなどによる歩いて楽しめるまちづくりを展開していきます。
- 駅前公有地を対象に、町民と来訪者とがふれあうことのできる交流拠点を創出します。
- 情報化社会という時代の要請に応え、インターネット等の情報技術の普及を促進するとともに、通信基盤等を整えていきます。



【シンボル通りの魅力を高める】

中心市街地を貫通する旧奥州街道の街並みを活かすとともに、旧伊達郡役所をシンボルとした景観を創出します。また、歩車共存道路、休憩処の配置など、賑わいのあるまちなか空間とします。

● 一般国道4号沿道

- 広域的な交通軸として円滑な交通流を目的とします。
- （仮称）国道4号ICの設置による福島市や相馬市などの相双地方の都市群とのアクセス性の向上を活かし、沿道に流通・業務拠点の形成を図ります。
- 沿道の無秩序な開発や煩雑な広告物などの設置による景観の悪化を抑制します。
- 半田山など、桑折町の地域性を感じられる風景をつくり、車窓からのランドマークを創出していきます。



【安全・安心な幹線道路】



【沿道の穏やかな景観】

● 農村集落

- 穏やかな田園景観を構成する住農が混在する土地利用を維持していきます。
- 農業振興地域に宅地が無秩序に拡大しないよう、地域のニーズに応じた一定のルールを設けた土地利用計画の策定など、適正な規制・誘導を図ります。
- （仮称）国道4号IC周辺については、流通・業務拠点の形成を図ります。
- 田園居住のニーズの受け皿となるような農地付住居など、魅力的な住環境の提供について、条例化などを含めて積極的に検討していきます。
- 遊休農地等については、適正な保全、活用を促進していきます。



【屋敷林や集落が一体となった田園景観】

集落や屋敷林、農地が一体となって形成している穏やかな景観を守っていきます。

● 田園・果樹園

- 水田や果樹園などの農地は、我々の生活の根幹をなす食糧生産の場として重要です。農地を守っていくため、食文化における地産地消の推進など、農家の人々が誇りをもって農地を維持できるようにします。
- 農地は、生産の場という機能のほか、景観形成、洪水調整などの都市防災という観点からみても重要であるため、これらを積極的に保全します。
- 桃の花咲き誇る季節をはじめ、観光資源としても優れた要素をもっていることから、阿武隈川の水辺と一体的な観光レクリエーションエリアを創出していきます。また、観光農業の導入など、活用方策についても検討を進めます。



【こおり桃源郷の見事な風景】

生産の場としての機能を維持しながら観光資源としての活用を図るため、アクセス道路や駐車場の整備、観光PRの展開も検討していきます。また、観光農園、体験農園などのグリーンツーリズムの場としての活用も検討します。



【段丘斜面林の緑の軸と農地の広がる風景】

带状に伸びる河岸段丘の斜面林と農地の織りなす穏やかな景観を守ります。そのため、無秩序な農地の転用を避けるなど、景観に配慮した適正な土地利用の規制誘導を図ります。

●水辺空間

- 阿武隈川は、豊かな自然環境を保全するとともに、こおり桃源郷などと併せた水辺レクリエーション拠点を形成します。
- 「うぶかの郷」「ゲンジボタル」などで町民に親しまれている産ヶ沢川は、既存の親水公園を中心に親水拠点を形成し、自然環境の保全、水質改善などについて積極的に検討していきます。また、桑折西山城跡などの資源を有効に活用し、さらなる魅力の向上を図ります。
- 桑折町の農業の生命線とも言える伊達西根堰（上堰、下堰）についても、身近な親水エリアとして散策路や休憩スポットの整備、水質改善などについて積極的に検討していきます。
- 住宅地などからの生活雑排水などが河川や水路の水質悪化の要因ともなっていることから、下水道や合併処理浄化槽の普及を図り、水環境改善に努めます。



【水辺空間の活用】

農道などを利用して川辺の散策が楽しめる小径を創ったり、生き物とのふれあいなど、水辺の豊かな活動のできる水辺空間を創出していきます。



【親水拠点の形成】

四季の彩りの中で親水活動を楽しめるような産ヶ沢川ホテル自然公園などの親水拠点の形成を図ります。



【阿武隈川の雄大な風景】

阿武隈川の雄大な風景を守るとともに、こおり桃源郷と合わせた親水拠点の形成を検討していきます。



【伊達西根堰を活用した水と緑のネットワーク】

桑折町の歴史を語るうえでもかかすことのできない伊達西根堰を緑・景観資源としても活用し、散歩道としてPRするなどの展開を図ります。また、下水道や合併浄化槽の普及による水質改善を更に進めます。

●森林空間

- 半田山とその周辺の森林や半田沼などの豊かな自然にふれあいながら楽しく散策できる「自然の小径」を自然環境に十分考慮しながら整備を進め、その活用を図ります。
- 自然観察や体験学習、保健休養・療養（フォレスト・セラピー）、観光・レジャー等への多角的利用のため、半田山自然公園の適正な再整備と管理運営の充実に努めます。
- 多くの公益的機能を有する半田山周辺の森林及びその緑豊かな景観について保全意識の高揚と森林法に基づく指導などにより、保全に努めるとともに、病虫害防除対策を推進します。
- 地域の実情に応じて、荒廃する森林や耕作放棄地のあり方、野生生物との共生について検討していきます。例えば、中山間地域の耕作放棄地等を森林に復元するため、またサルなどの野生動物による農産物等への被害を防ぐためにも、ドングリなどの実をつける広葉樹の植林を推進します。
- 半田銀山の歴史を次世代へ継承するため、これらの歴史・文化資源の活用を検討していきます。
- 藤倉ダム周辺の森林については、水源かん養機能も重要であるため、適正な保全を行い、桑折町の大切な水瓶を持続していきます。



【自然とのふれあいや癒しの場・半田山自然公園】

半田山は、自然とのふれあいの場として親しまれてきました。今後は、森林療法など癒しの場としての活用なども含めて、更なる機能向上を図っていきます。



【桜の見本園や早田牧場跡地などの資源の活用】

桜の見本園や早田牧場跡地、半田銀山遺跡などの資源を活用し、森林の緑と一体的に町民や観光客の憩いの場としていきます。半田山自然公園やこおり桃源郷等との相乗効果を発揮するため、こおりの小径等による連携を図っていきます。